

第6回 小中一貫校準備会議

議事録 要旨

- 1 開催日時 平成 27 年 1 月 16 日(金)19:00～20:30
- 2 開催場所 生駒北小学校多目的室
- 3 参加者 諸岡健一（保護者代表）、角 義恭（保護者代表）
吉川 太（自治会代表）、有山喜八郎（自治会代表）
十文字良明（生駒北小学校長）、本田善藤（生駒北中学校校長）
富山二郎（教職員代表）、松島誠周（教職員代表）
（教育施設研究所 3 名）

4 開会あいさつ(部長)

小柳先生と教育施設研究所長が欠席。有山氏が座長代理。

5 質疑応答

座長代理： 基本設計案は 1 月末の決定を予定。前回会議以降、事務局で検討したことを報告いただく。

事務局： 前回の基本設計案から変更した部分を中心に説明する。

全体の配置図では、学校からの要望で、運動場にテニスコートを一面入れた。東門付近の用地は交渉中なので、若干の変更があるかもしれない。新校舎 1 階部分。職員室・校長室・印刷室・放送室の配置を変更した。学校からの要望で、職員室に印刷室を取り込み、生徒が直接出入りできないようにした。職員室には呼び出し用マイク設備を設置できるので、放送室の場所に校長室を設置し、放送室は 3 階に移動している。学童保育室は 1 階北西側に移動し、会議研修室と入れ替えた。そして、学校用倉庫を広いスペースにして学童保育室の南側に、また職員室南側ホール部分にも新たに設置している。それから学校と協議をし、特別支援教室と小中の保健室を普通教室 1.5 室分とし、保健室に隣接して相談室を 2 部屋設置、会議研修室の北側にも相談室を設置した。校舎 2 階は、中学校用理科室は廊下部分を取り込み拡張した。生活科教室も同様である。生活科教室については、小中一貫校に詳しい大学の教授の意見を受けて、生活科教室を小学校 3・4 年生の図工教室としても使えるようにした。そのため広いスペースとなっている。3 階の美術室は小学校 5・6 年生と中学生が使う。外国語教室をコンピュータ室の隣にして、教室を広くした。よって、外国語教室と児童生徒会室、少人数教室の配置を前回から変更している。3 階部分では、音楽室の楽器庫はメディアスペースを取り込み、拡張している。和室は 2 階図書室の吹き抜け部分に新たに設置した。メディアスペースの活用方法は資料で提示している。

設計業者： メディアスペースは児童生徒が教材等を見て関心をもつためにある。また、自分を表現するため

の場である。子どもの作品を展示して個性を育む。また、テーブルを置くなどして本を読んだり、地元で取れる野菜を展示したりできるので、先生で工夫してほしい。技術の作品を展示したり、壁面を利用して絵画を展示したりすることもできる。地域の方の作品も展示できる。

設計業者： 1階の学童保育室で心配したのは、年少の子どもが一人で玄関まで行くのに、車と交差するのではないかということである。歩道を設けてガードレールをつけ、安全を確保していかなければならない。2階の外国語教室は車座になって授業を受けることも考え、広い教室にした。

座長代理： 質問はないか。

参加者： 技術室が3階にあるが、おがくず等のごみの処理をどうするのか。

事務局： 現在は集塵機で木工作業の木くずを集めているようだが、2階や3階に技術室がある学校もある。ごみ出しにエレベーターを活用する方法もある。実施設計で検討する。

参加者： 1階の倉庫まで集塵機を引っ張るのか？

設計業者： メーカーに確認したが、可動式の集塵機を技術室内に置くのが一般的である。1階から引っ張るのは工場と同じような設備となり効率が悪い。過去の実績からしても技術室に置くのが一般的だ。

参加者： できるだけ音が出ないものにしてほしい。今まで見た中では1階で外に集塵機がある学校が多かった気がする。北中は室内に集塵機があり、やかましい。

参加者： PSやEPSとは何か。

設計業者： PSは上下水道の配管、EPSは電気の配管である。

座長代理： 多目的室に地域用玄関がある。鍵はどうするのか。

事務局： 土曜や日曜に地域の方が借りる時にどうすればいいのか、ということか。

座長代理： 学校に許可を得て借りるのが通例だが、地域でカギを管理し、学校に迷惑をかけないようにしたい。

事務局： どのようにするかは今後、学校と地域と保護者が考えてほしい。

参加者： 図面で見ると、女子のトイレの便器が2つと少ない。現在は3つあり、可能ならば増やして欲しい。

設計業者： 男子は小便器が25人に1つ大便器は50人に1つ、女子は20人に1つを基準に設置している。(設計図でも3つ確保されていることを確認)

参加者： 3階は中学生もいて、小学生が使いにくい。スペースあれば検討してほしい。子ども用のロッカーは教室にいくつあるのか。また、ロッカーはどこに設置するのか。児童用のロッカースペースについて、想定しているものがあれば教えてほしい。

設計業者： 教室の内側背面に40個設置する予定だが、現在の利用状況を十分把握するため、調査することが大事である。低学年にはワークスペースに可動の収納庫の設置できる。オープンスペースも活用できる。

参加者： 調理室はメディアスペースから入るのか。

設計業者： 必要なら準備室からも入れるようにできる。1階なので外部から入れるようにもできる。

座長代理： 確認したいことは他にないか。

参加者： 理科準備室1・2の壁は必要ない。

事務局： 耐震上も問題がないので、理科準備室は1つということでもいいか。

参加者： 小中一貫校なのでその方がいい。メディアスペースを取り込んで理科準備室は広くしてほしい。

展示等を教室内に展開することもできる。理科室のメディアスペースや教室内の出窓について使い方を教えてほしい。

事務局： それらの使い方については今後の課題である。外にあるからこそ、見る機会も増えるのではないかな。

参加者： 理科室のメディアスペースは見た目はいいが、使う側にしてはそうではない。

事務局： 今後は、学校の考えをデザイナーとともに詰めていきたい。

参加者： 保護者会としての要望書をまとめた。12月22日中教審答申で、小中一貫校の制度化が答申された。制度化された場合、北小中は小中一貫型の小学校・中学校と理解してよいか。

事務局： 今のところ、そのように考えている。

参加者： 生駒は冬が寒い。全館冷暖房空調システムの導入をお願いしたい。熱交換型排気システムの導入を検討していただきたい。

事務局： 検討する価値はあると思うが、現時点では考えていない。

参加者： 安全な空調をお願いしたい。車についてだが、1時間に1本のバスしかない地域がある。自転車は雨天時乗れないので自家用車で送迎が必要だ。安全に停車できるスペースの確保をお願いしたい。東門が使えるのではないかな。学童保育室だが、前の図面で50㎡少なくなるのを心配していた。今回の図面では2㎡広くなったが広さとしては大丈夫かな。

事務局： 学童の専有スペースは広げた。今後は40人前後で学童の人数が推移すると思われるので、この広さで十分である。

参加者： 学童の子どもは給湯室を通過して学童保育室に入るのかな。

事務局： 学童保育室は校舎側からは入れないようにしている。

参加者： 車は東門を利用できるのかな。

事務局： 車については今のように学校から離れた場所に車を止めて乗り降りしてほしい。東門から登校する子どもがいる中、そこで子どもが車から乗り降りすることには友達関係の面からも問題がある。

参加者： わかった。

参加者： グランドは現時点で問題にすることではないかもしれないが、サッカーコートとテニスコートの間は狭くないか。低学年用運動スペースは運動場のボールが飛んでくる可能性がある。ビオトープをなくして南まで伸ばし、広さを確保したが、ビオトープの代替はあるのかな。

参加者： 中庭に石で高山や生駒市の地形を作り、そこに雨水で循環型のビオトープを作ればいいのではないかな。

参加者： 中庭は使える。しかし、本来のビオトープはそこに生態系が生まれてくるものだが、それは難しいだろう。

参加者： 日は当たる。雨水を使い、太陽の光が当たると循環する。蛍が飛ぶことも可能だ。安全のためにも尖っていない石を使い、くろんど池をイメージした中庭だといい。

座長代理： ビオトープの生態系は10~20年先までかかる。生駒市初の小中一貫校として、教育施設研究所はどんな思いをもって設計したのかな、前回もお話いただいたが、再度話を聞きたい。

設計業者： 子どもがいきいきと学び、生活し、交流できる学校にしたい。小中一貫校なので、子どもの成長に応じた学びとして、低学年は教室中心の学びとして教室を広く、中学年は学年での活動を、中学生は授業時間内に連続した学習展開ができるようにした。メディアスペースだが、東京都では標準

設計にしている自治体もある。子どもが学ぶきっかけを作り、個性を育むことができるような空間がメディアスペースである。また、コミュニケーションの向上が大切で、環境都市生駒として昇降口前にエコホールを設置し、大階段を設けて学んだことを発表する場所を作った。

- 参加者： テニスコートはフェンスを作るのか。現在使っている山側のコートを使うのではないのか。
- 参加者： 今のテニスコートは水はけが悪い。そこが使えないときは、運動場を使用できるようにしている。
- 参加者： 冬は早く暗くなり、そこへは行くだけで時間がかかる。
- 参加者： わかった。
- 参加者： 調理室は東西に横長だが、準備室を西端にして南北に長い調理室を作り、出入り口を2か所にできないか。
- 設計業者： 特別教室については学校と打ち合わせをしたい。
- 座長代理： 中庭に出るのはどこからか。
- 設計業者： どこからでも入れるようにできる。窓は引き違い窓で安全面を考え、鍵を付けるなど配慮したい。
- 参加者： バス停から東門にわたる時の安全面の配慮をしてほしい。黒板は教室の縦方向にあるものだが、理科室や音楽室、技術室では窓がつぶれる可能性がある。
- 設計業者： 廊下側に黒板を設置する。扉は引違にして壁に入り込むようにする。
- 座長代理： 出入口は2か所で黒板の両サイドから出入りするようになるようだが、以前は確か西側に黒板があり、左側から光が入っている教室が多いのではないか。
- 設計業者： 今は、南側に教室を作るのが決まり事ではなくなってきた。そうでないと北側に教室が作れなくなる。
- 座長代理： 新たな要望も検討していただき、実施設計に進んでいいか。
- 参加者： 和室ができ、育友会として和室をどう活用するかを考えないといけない。責任を感じている。ありがたい。
- 座長代理： これからは詳細設計に進むがいいか。
- 参加者： 少人数編成で少人数教室を普通教室に変えるなどして、1学年を2学級にすることは可能か。生徒一人ひとりがよく見えるし、学力の保証にもなる。それが可能か確認したい。
- 事務局： 児童生徒会室、少人数教室等は普通教室として活用できる。また特別支援教室3室も活用できる。
- 座長代理： 質疑を終わる

6 事務連絡（事務局）

第1回会議で配った資料を再度配布した。教育内容などのソフト面と施設設備等のハード面について並行して進める必要がある。これから実施設計までは時間がかかる。学校では教育課程や教育内容等について推進協議会を組織して検討していると思うが、今年2学期から必要となるものもある。また、学校名や行事などに関しては保護者や地域と話し合いを進めることも必要であろう。スーパーバイザーとして小柳先生から指導助言を受けたり、市教委が入ったりすることもできるので声をかけてほしい。また、育友会に関しては、組織体制づくりや地域連携の在り方を検討してもらわなければならない。その際に相談があれば、学校や市教委に連絡してほしい。話し合ったことについては今後の準備会議で提案していただく。受験や年度初めで忙しいと思われるので、次回の準備会議は6月以降になる。それまでに検討し、次回の会議で報告をお願いする。